

学校法人大阪医科薬科大学 高槻高等学校・中学校 国内外の大学と密に連携したプログラム開発（大阪府）

実施体制の概要

- 全校生徒数：約1,565名(中学・高校)
(うちSGH対象生徒 約160名)
- SGH対象学科：
各学年1クラス（GAコース）を対象とする
- HP：
<https://www.takatsuki.ed.jp/>
- SGH委託費用総額：約3,837万円
(H28～R2：約567万円～約1,000万円)
- 校内の体制：校務分掌の国際教育部に加え、平成30年度より、GA/GS/GLの3コースに応じWGを組成。SGH特化コースのGAコースのWGに教員の約1/3が参画。
- 国内連携機関：
大阪医科大学、京都大学グローバルヘルス学際融合ユニット 等
- 連絡先
✉ takito@takatsuki.ed.jp
072-671-0001（代表）

何を目指したか

アジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成

ツールのポイント

- 1 海外の同世代の若者と協働活動の経験を積むために、現地の大学、連携高校の支援のもと、海外での発表や、ワークショップを実施。
- 2 現地政府機関や連携高校の支援の下、フィールドワーク（パラオ）を実施。

SGH事業実施に必要な資源



■新たに求められる教育への対応のため、人材採用時には、課題研究の指導力も重視。医科大学教員についても、高大連携を視野に入れた教育力を期待。



■国費の他、海外大学との研修費用等、卓越した教育という目的に合致すれば法人も積極的に負担。校長は説明責任を果たす役割。



■教育旅行会社、エージェントも活用し調整業務を効率化・定型化。研修内容についてはしっかりと要望を伝え、オーダーメイドに。



■SGHに関わる教員は年々増加し、最終年には約1/3の教員が関わる。共通認識を持ちながらも、調整の難しさや温度差も。社会科と英語科教員が中心となっており、その他の教科間の意思疎通も課題。

Plan

ツール作成の背景

- 平成23年の創立70周年を機に学校改革に着手し、“Developing Future Leaders With A Global Mindset”というスクールミッションを策定。英語教育を目玉として出発したが、その後大阪医科大学との法人合併等を機に、単なる語学力の習得だけではなく、国際社会で活躍できるリーダー育成に着手。その具現化の1つの手段としてSGHに申請（H26にSSHも申請）。また、探究型教育の推進のためコース制を導入。SGHに特化したGAコース、SSHに特化したGSコース、スクールミッションの実現に特化したGLコースを設定。
- 学校法人内に医学系・薬学系大学を擁する特色を活用し、世界の人々、特にアジアの人々の健康問題を文系・理系双方向から探究するカリキュラムを策定し、**今後国際社会の課題を解決していく主な協働先（コラボレーション先）は同年代であるとの認識のもと、海外の同世代の若者との協働活動**を中心としたプログラムを構成。また、グローバルな課題解決には、多様性を認めることが重要であり、自分と違う意見を認め、共感することができるためには**バランス感覚が重要**との認識から、目指すべき人材育成像として、**バランス感覚に優れた次世代リーダー育成**を目的とした。

Do

ツールの解説

✓ 国内外の大学との定常的な連携 ✓ アジア・フィールドワーク

取組概要

- グローバルヘルスに関する学習支援として、京都大学グローバルヘルス学際融合ユニットと連携し、ユニットが開催する国際会議や若手研究者のポスターセッションに生徒も参加。また、グローバルヘルスに関する海外専門書の翻訳プロジェクトにも3名の生徒が参加するなど、様々な機会を活用している。
- スタンフォード大とも連携し、平成27年度に同大国際異文化教育プログラムと共同で、グローバルヘルスに関する本校向けのオンライン講座（6か月間）を開講。高校1年生のすべてのコースから45名が参加可能。

取組概要

- 太平洋島嶼国の政治形態の研究を専門とする大学教授の指導のもと、パラオ共和国でのフィールドワークを行う。
- パラオ共和国は人口2万人の国家で、全体を俯瞰しやすく、要人や住民とも直接交流しやすく、かつて日本による委任統治があり親日的で、太平洋戦争に係る歴史を共有する特徴から、SGHの理念であるバランス感覚を磨くプログラムとして継続している。
- 現地政府機関やNPOのもと、現地連携校での学校交流、島民との対話集会にも参加し、バランス感覚を育む。

Check

取組内容の評価

- 取組を通して、生徒の海外への視線・視点が形成されてきた。2019年度の2年生を対象とした調査で、「海外の学生、高校生との交流から自分の将来を考えるきっかけが得られましたか」に7割弱の生徒が肯定的に回答。また「海外大学に対する興味や関心の高まり」は4割強の生徒が肯定的に回答。
- 探究的な学びを通して、問題意識を高め、社会に出た後の見通しをもって大学への進路を考えられる生徒が多くなってきた。

Action

指定期間終了後に向けて

- 関わる教員が増える中で、課題研究の中で必要となる基本的な事項について、担当教員が本校「独自教材」を作成。一つの型が作成されたことで、他の教員にも指導方法が普及し、それにより更なる改良が促進されることを期待している。
- OB大学生から、SDGsに係る出張授業の提案も出てくるなど、循環が形成されつつある。